

長野県社保協第26回定期総会公開講演会

全世代型社会保障「改革」の本質を問う

～憲法の社会保障理念から「改革」の本質を問いただす～

講師

唐鎌直義氏

立命館大学特任教授



このコロナ禍で「自己責任」を押しつける菅政権の内閣支持率が急落しています。国民の6割以上が菅政権のコロナ感染対策を「評価しない」と答え、1月の世論調査ではついに「不支持」が「支持」を上回りました。政権発足から3か月、日本学術会議への人事介入をはじめ、コロナ感染対策の無為無策、「政治とカネ」問題の噴出に対し国民の厳しい目が注がれています。

21年度予算案は、社会保障費の自然増を1300億円削減する上、75歳以上の高齢者の医療費窓口2割負担も盛り込む一方で、軍事費は過去最高の5兆3422億円を更新しています。

唐鎌先生は、「貧困の除去(すべての人々に対する最低生活の保障)」という観点から日本の社会保障を再構築すること」を自身の研究テーマにしています。昨年10%に増税された消費税による生活への影響、竹中平蔵氏による「ベイシック・インカム」の動向にも触れながら、『全世代型社会保障改革』の本質を質し、日本の目指すべき社会保障について提言していただきます。

日時：2021年2月27日(土)

13:00～15:00

Zoom視聴

無料

開催方法：オンライン講演(Zoom視聴)

定員 100名

申込〆切

2/22

Zoom 視聴申し込み方法

右のQRコードにアクセスして申し込むか、事前に下記メールに氏名を添えてお申し込み下さい。

主催：長野県社会保障推進協議会

Email：naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp

